

1 カラマツ人工林における水源涵養機能を強化するための森林管理手法の確立(H30~32)

森林総合研究所

背景・目的

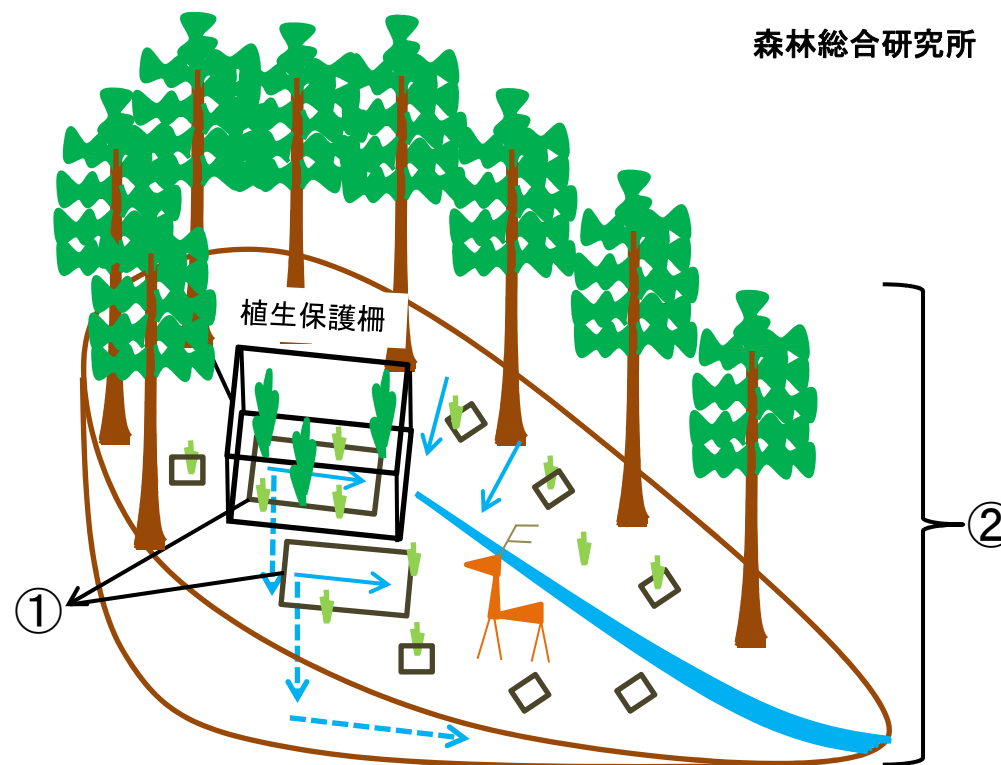
やまなし「水」ブランド戦略の策定(H28年3月)
→健全で豊かな森づくりを進め、水源涵養機能を強化することが必要

カラマツ人工林
→県有林の人工林の46%を占める主要な樹種

ニホンジカの食害等
→下層植生の衰退・変化



カラマツ人工林における水源涵養機能を評価し、やまなし「水」ブランド戦略にある水源涵養機能を強化するための森林管理手法について提案



研究内容

①プロットスケールでの水源涵養機能の評価
→降水量、地表流量、土壌密度、植生調査等を計測し、森林管理や獣害対策の違いと降雨に対する浸透の変化を把握

②流域スケールでの水源涵養機能の評価
→①のプロットを含む流域に、植生や表面流の簡易調査を多地点で実施し、広域的に評価

H30: プロットの設置、植生保護柵の設置、流量計及び雨量計の設置と測定、植生調査、土壌調査

H31-32: 各種観測・測定、広域調査の実施、調査結果のとりまとめ

期待される成果

研究成果に基づく森林管理手法を導入することにより、水源林の整備保全が図られ、豊かな水が将来にわたって供給される。